

志望理由書×学生募集

志望理由書作成のプロセスが 志望校選択を“自分ごと化”していく

書き方よりもまず重要なのは自己理解

近年、年内入試の拡大などから、高校における志望理由書指導の必要性が増しています。一方で、担任や国語科教員など、一部の教員に負担が集中したり、指導の質にばらつきが見られたりするなどの問題も出てきました。そこで、進研アドでは2021年から、高校生の志望理由書作成をサポートする「進路達成プログラム」を全国の高校で無料で実施しています。

今、進路指導の現場では、高校生が大学の雰囲気に触れる機会が激減し、大学研究が滞っていることが課題になっています。しかし、それ以上に問題なのは、進路選択を“自分ごと化”できない生徒が少なくないこと。そのため、先輩の志望理由書を丸写ししたり、教員が志望理由書に大きく手を加えたりするケースも見られます。これでは書類上の形は整うかもしれませんが、面接時に自分の言葉で志望理由を語れるようになるのは難しいでしょう。

こうした状況をふまえ、本プログラムでは、最初に適性診断テストを受けてもらいます。特に卒業後の進路が多様な高校は「自分には得意なことがない」と思い込んでいる生徒が多いため、客観的に自分の“強み”を知ってもらうためのしかけです。それを基に志向や強みと合う大学を複数提示し、大学案内などを調べて各大学を比較検討する方法をレクチャー、その後オープンキャンパスに参加し、大学を“体験する”ことを勧めています。自分の進路を自分ごと化させ、なぜその大学が自分に合うのかを考え、最終的に志望理由書を書くまでには多くの下準備が必要です。志望理由書の作成も1回ではできず、繰り返し書く過程の中で、生徒は自分の進路を歩み出し、志望校合格への意欲を高めていくのです。

低学年時からの関わりが志望理由をつくる

志望理由には、高校1・2年次でどんな経験をしたかが大きく影響します。よって、大学が高校の志望理由書作成に協力する際は、低学年時からの関わりがポイントです。その場合、例えば模擬

(株)進研アド 進路支援部

伊藤 幸

いとうさち●首都圏の大学向けに学生募集やブランディングの支援に携わった後、2019年より全国の高校の進路学習支援を行う。



授業などは、大学生向けの授業のままでは消化不良になってしまうので、高1・2生向けの内容にアレンジする必要があります。

大学が高校生に自学ならでの学びの特長や社会でどんなキャリアが期待できるのかを伝える形で広報したり、体験できる機会を提供したり、高校生の相談に乗ったりすることは、生徒が自分らしい進路選択をするために重要です。高校での経験と将来の希望を記した志望理由書は、いわば高校生活の集大成。志望理由が明確になると生徒は最後までがんばり続けることができ、大学も入学者のミスマッチのリスクを低減できます。実際、本プログラム受講後に行ったアンケートを見ると、生徒は進路に向けて前向きになったことが見て取れます【図表8】。両者のメリットが大きい志望理由書の作成に、大学もぜひ関わっていきませんか。



▲志望理由書作成授業の様子。取り寄せた大学案内や受験情報誌も使って大学比較も行う

【図表8】進路達成プログラム受講後の生徒の感想

【進路達成プログラム】に取り組んだ後で、次は進路検討について、こうしてみたいと思うことがありますか？(複数選択)

